

令和2年度 3学期始業式 式辞（全日制）

いよいよ令和2年となり、3学期がスタートしました。

皆さんは、充実した冬休みを過ごしたことと思います。

冬休み中も、補習をはじめ、様々な大会や活動が行われ、勉強や部活動に、みなさんの健闘が光っていました。

12月22日に京都で行われた全国高校女子駅伝大会では、本校の陸上部が愛媛県代表として出場し、堂々の28位、都王地をさわやかに駆け抜けてくれました。

さて、皆さんは、ラーニングピラミッドを知っていますか？学習方法と定着率の関係をピラミッドにしたものです。

それによれば、学んだことの定着度が一番低いのが、

「(講義)…授業や講義を聞いて学ぶ」で、これは5%しか定着しません。

次が、「(読書)…教科書や書籍を読んで学ぶ」 10%

3番目が、「(視聴覚)…ビデオや写真を見て学ぶ」 20%

4番目、「(実演説明)…実験などの実演を見て学ぶ」 30%

5番目、「(議論し合うグループ)…与えられた課題をグループで議論する」
50%

6番目「(練習)…問題集などを解いて練習する」 75%

次、7番目で最後です。7番目が何か、知っている人はいますか？

「(他者に教える)…覚えたことを他の人に教える」なんと90%の定着率だそうです。

ラーニングピラミッドについては、様々な意見もありますが、人に教えることが、学習の定着に効果的であることは間違いのないと思います。学びあい、教えあいながら、さらに学力を高めていってほしいと思います。

皆さんにとって大事なことは、どういう状況、どういう環境にあっても、みずからを卑下しないことです。何があっても、楽しみながら、自身の可能性を開いていくことが大切です。

もし、自分なんかだめなんだと思えば、その瞬間から、自身の可能性を、自ら摘み取ってしまうこととなります。未来をどう開くかの鍵は、すべて、現在の自分にあります。

アメリカの発明王エジソンも膨大な数の失敗にもひるまず、挑戦し続けました。自身の身体的なハンディにも、「自分は耳が聞こえないから幸運だ。雑音に惑わされる事なく考えることができる」(浜田和幸著『快人エジソン』、日本経済新聞社)という強さがありました。困難の中でも、失敗を前向きに捉えていました。

青春時代の本当の失敗とは、失敗を恐れて挑戦しないことであると思

います。困難なことに挑戦し、たとえ失敗したとしても、それは必ず成長の糧になります。

これから、難関のセンター試験に挑戦する 3 年生の皆さんは、今日まで努力し続けてきました。その挑戦する姿そのものが、立派であり、勝利だと思います。中には、思うように勉強が進まなかったり、不安に心揺れる人もいるかもしれませんが、しかし、努力を重ねた事実は決して消えません。勉学で磨いた力と心は、自分自身の宝です。

『自分は自分なりに、できることをやり切った』という努力をすれば、その人が勝利者だと思います。挑戦し続ける人に、敗北はありません。“勝利の春”を目指し、自分に今できることを積み重ねてほしいと思います。

進路が決まっている人は、卒業後の将来を見据えて、さらに力をつけてほしいと思います。

1・2 年生は、これから、自分たちの番がやってきます。今できることを自分らしく積み重ねてください。

3学期は、寒さが最も厳しい時期になります。風邪などひかないように、聡明に健康管理を行い、全員にとって大成長の三学期になることを期待して、式辞といたします。